

共通

国語

資料調査票 (学力実態調査・小学5年生国語)

1 (一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

「友だちががっかりしている犬の夕口を追いかけて、たっちゃんは「この先、ゆきとまりはいらないでください」と書かれた立てぶだのおくの小道にはいっていきました。」

たっちゃんは、そつと小道にはいっていきました。ゆつくり歩かないと、ササの枝が顔にはねかえってきます。やぶはますます深くなくて、たっちゃんの背たけの二倍はあるでしょう。そのやぶの中を、せまい小道はずつと登り坂で、上へ上へと続いているのです。

ようやくくすくす平らな道になったと思つたら、いきなりササやぶがなくなつて、静かな静かな松林の中へきていきました。

足もとには、かれた松の落葉が ① と積もつていて、なんだかいい気持ちでした。上を見あげると、高いこずえの向こうで秋のお日さまがちらちらとゆれていました。

さあつと風が吹きわたりました。坂をあがつてきたたっちゃんの汗が、すつとひっこみました。松林に吹く風は、びつくりするほどやさしくやわらかに響きました。そのまま、なだらかな松林の丘を登つていくと、右下の谷間に、ちらちらと ② が見えてきました。③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

しばらくのぞきこむように眺めていたたっちゃんは、そこまですつとみようかなと思ひました。

松林はずれに、ほつりと日の当たつた枯れ草の土手がありました。たっちゃんは、いい匂いするふかふかの草に腰をおろしました。それから、思いきつてあおむけにねころんで、うーんと手足を伸ばしました。

なんともいえないいい気分でした。目をつぶると、そのまま眠つてしまひそうでした。でも、たっちゃんはむつくりと起きあがりました。

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(一) ① にあてはまる言葉として最も合うものを次の中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ア そつくり イ ゆつくり
ウ ふつくり エ ひらひら

ウ

(二) 「さあつと風が吹きわたりました」とありますが、このときの風はどのようなものでしたか。その説明として最も合うものを次の中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ア たっちゃんをこまらせる、いじわるな風
イ たっちゃんの体を温める、とてもやわらかな風
ウ たっちゃんを喜ばせる、楽しくゆかいな風
エ たっちゃんを気持ちよくさせる、さわやかな風

エ

(三) 文章の中の ③ ④ ⑤ には、たっちゃんが心の中で考えたことが入ります。次の ⑥ ⑦ を入れるとき、どのような順番になりますか。最も合うものをア～エの中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ⑥ ㉑ (たいへんだ。ぼく、すぐに帰らなくちゃいけないみたいだ)
⑦ ㉒ (すてきたな)
⑧ ㉓ (だけど、こんなところにこんな静かな山や谷があるなんて、ちょっとへんだ)
⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ウ

【分野】 文学的文章
【出題のねらい】 様子を表すのにふさわしい語句を選び、文脈にそつて適切に使う。

【分野】 文学的文章
【出題のねらい】 叙述の細かい点に注意して、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読み取る。

【分野】 文学的文章
【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化を想像しながら読み取る。

(4) この文章の中で、たっちゃんの気持ちはどのように変わりましたか。最も合うものを次の中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ア 心配 ↓ さわやか
- イ ゆったり ↓ 不安
- ウ すっきり ↓ 喜び
- エ のんびり ↓ つかれ

イ

(5) 「立ちすくみました」とありますが、このときたっちゃんのようすはどのようなものだったでしょうか。最も合うものを次の中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ア どうやってタロを見つけたか、立ったまま考えた。
- イ どうしていかかわらなくなり、立ったまま動けなくなった。
- ウ どこか来たか思い出そうとして立ちすくんだりした。
- エ もう一度田舎の景色を見たいと、背のびをして立った。

イ

(二) 次の□の中に、あてはまる漢字を書きましょう。

- ① ( )みを ( )拾う
- ② ( )不 ( )便な方法

(三) (例) にならって、□に漢字を入れて、上にある意味を表す熟語を作ります。

(例) からの温度・・・体温

- ① いちばんはじめ・・・最初
- ② はたらくこと・・・労働

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化について、内容を大きくまとめて読み取る。

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 内容の理解に必要な語句の意味を、文脈の中で正しくとらえる。

【分野】 言語事項  
【出題のねらい】 第三、四学年に配当されている漢字を正しく書く。  
【採点基準】 「不」の二、三、四画目が一点から出ているものは誤答とする。「便」の八画目と九画目が交差していなければ誤答とする。

【分野】 言語事項  
【出題のねらい】 第四学年に配当されている漢字を正しく書く。

共通

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

次の物語は、開拓時代のアメリカ中西部で、きびしい大自然の中で、食べるために狩りなどをしながら、さまざまな困難を乗り越えつつ、家族みんなで力をあわせて生きていったイングルス一家のできごとです。いつもは狩りに行くと獲物をしとめてきた「とうさん」が獲物を持って帰ってこなかった日のごとです。

夕ごはんがすむと、とうさんはローラをひざにのせ、メアライは、自分の小さな椅子を、びったりひきよせてすわりました。とうさんはこういいます。  
「さて、きょう、なぜあたらしい肉が食べられなかったか、そのわけを話すとしようか。」

とうさんは、シカの名め場へいって、そばの大きなカシの木にのぼったんだ。いいぐあいにすわれて、なめ場の見張りをするにはちょうどいい枝ぶりの所があった。なめ場へきた獲物をうつにもちょうど近さだったよ。で、鉄砲には弾丸がこめてあるし、ちゃんといつでもうてるようにひざにのせておいた。  
とうさんは、そこにすわって、月がでて、下のなめ場を照らすのをじっとまっていたんだ。

とうさんは、きのう一日じゅう、薪づくりをしてすこしつかれていたんで、どうやらそのままねむってしまったらしく、はっとして目をあいた。  
大きなまるい月が、ちょうどぼたばかりだった。木立のはだかの枝しに、空の下のほうに月が見えた。そして、その月を背にして立っているシカを見たんだ。頭を高くあげ、何かの音をきいている。大きな枝角が、その頭の上にぐっと張りだしている。月を背にしているの、シカは影絵のように黒く見えていた。

それこそ、うつにはおあつらえむきだった。だが、シカはいかにも美しく、とてもよく、自由で、おそれというものをまるで知らないように見えたので、殺すことができなくなってしまった。とうさんは、じっとすわったまま、シカを見つめていると、やがて、暗い森へ、びよんと、とんではいってしまっただんだ。  
そのときになって、とうさんは、かあさんも小さな娘たちも、おいしい、あたらしいシカ肉をもつてるだろうとまってるんだった、ということも思い出したんだよ。で、このときはきつとうつぞ、と心にきめた。

しばらくすると、こんどは大きなクマが、よたよたりとそこへあらわれた。夏じゅういろいろなブドウや木の実や根や地虫なんかをしゃべりたま食べて、ふとりにふとつたどみえ、二ひき分ほどの大きさはあったね。月あかりのなかを、頭を右左にふりながら、ゆったりゆったりひろい草地を横きって、くさった丸太のまえまでやってきた。くんくんにおいをかいでみてから、じっと耳をすましている。それから、前足で丸太をふみわると割れめをくんくんかいては、コロコロした白い地虫を食べだした。やがて、あと足で立ちあがり、じっと立つたまま、まわりを見まわすんだ。どうもおかしい、何かへんだぞとあやしんでいるようだった。その正体を見とどけるか、かきわけようとしていたんだね。

うつにはもってこいのまどだったのだが、クマの様子を見ているとじつにおもしろくて、それに、月の光をあびた森は、そりやあやすらかに見えたので、とうさんは、鉄砲をもつていってこさせわすれてしまっていたんだ。クマが、よたよたりと森へはいっていつてしまいうまで、それをうつことさえ思いつかなかったんだからね。  
『こんなことじゃ、いかんぞ』とうさんは思ったよ。『こんなことをしてたんじゃ、いつまでたっても肉は手にはいらぬい』

とうさんは、木のまたにすわりなおし、もういちどまつことにした。こんどこそ、獲物が見えたら、かならずしめようと、かたく決心したのだ。

月は空たかくのぼり、その木立のひらけたあたりぜんたいは、月の光にあかかと照らされていた。まわりをかこんでいる木々の間は、くろくろと影になっていた。

かなりたったころ、その木立のかけから、一びきの牝ジカが、この春生まれた子ジカをつれて、ひっそりかき足どりできてきた。ちっともこわがっているようすがない。とうさんが塩をまいておいた所までいくと、ほんのすこしそれをなめた。

それから、二ひきは頭をあげ、顔を見合すと、子ジカがトコトコ歩いていって、かあさんジカとならんで立った。そうしてよりそったまま、まわりの森をながめ、月の光をながめていた。親子のシカの目は、やさしくかがやいていた。

とうさんは、じっとそのシカを見まもっていたが、そのうち、連れだつて木立のかけにきえていってしまったんだよ。それで、とうさんは木からおりて、家へ帰ってきたくてわけなのさ」

ローラは、とうさんの耳に、そっとささやきました。「とうさんがそのシカをうたないでくれて、とつてもうれい」

メアライはいいます。「バタつきパンがあるから、だいじようぶよ」

とうさんは、メアライを椅子からだきあげ、ふたりをぎゅつとだきしめました。

(ローラ・インガルス・ワイルダー 「大きな森の小さな家」より)

〔注〕 \*1 シカのなめ場⇒シカが塩気がほしくてやってくる。地面に塩気のある場所のこと。

\*2 枝角⇒枝わかれした角のこと。

\*3 地虫⇒コガネムシ科の昆虫の幼虫。

(1)とうさんの話には、「月」のようすが何度か表現されています。このことは、読む人にとって、どういうことを伝える効果があるでしょうか、次のうちから二つを選び、□に記号で答えましょう。

ア 月の光の中で見たことが夢のなかのできごとであるということ

イ 月の光の中では、すべてが冷たい作り物のように感じられるということ

ウ 月の光の中に、動物たちのようすが生き生きと浮かび上がったということ

エ 月のようすから、もうすぐ冬がやってくる季節だということ

オ 月の位置の変化によって、しだいに時間が経っているということ

【完答、順不同】  
オ ウ

(2)とうさんが、動物をうつのはなぜですか。理由を書きましょう。また、その理由が最もよくわかる部分を抜き出して書きましょう。

理由 【解答例】 家族の食べ物を得るため。

最もよくわかる部分 【解答例】 かあさんも小さな娘たちも、おいしい、あなたらしいシカ肉をもってくるのだらうとまつてるんだつた

(3)とうさんが、なめ場で、シカやクマや親子のシカをうつことができなかつたとき、その動物たちに対してのとうさんの様子を共通しているのは、どういうことですか。答えましょう。

【解答例】 動物たちの様子に、生きていることが感じられて、みとれていました。

(4)「とうさんがそのシカをうたないでくれて、とつてもうれい」とありますが、ローラがそう思ったのは、ローラは、とうさんがどのような人だと思つたからですか。答えましょう。

【解答例】 とうさんがシカの親子をやさしい気持ちで見ることができると思つたから。

(5)この物語は、人間が生きていくための動物との関係において、対立する二つの考え方に気づかせようとするものです。その二つの考え方は、どういうことと、どういうことですか。答えましょう。

【解答例】 生き物たちの命をうばつて生きていくこと。

【解答例】 生き物の命を、人として大切に思うこと。

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 物語の内容を理解し、登場人物の行動の理由をあげる。また、そう考える根拠を本文中の表現から抜き出す。

【採点基準】 動物をうつ理由に、「生きるため・食料を得るため」という内容が書かれているものを正答とする。抜き出しについては、「かあさんも小さな娘たちも」「シカ肉」「まつてる」の内容が含まれていれば許容。

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 複数の場面における登場人物の様子で共通していることをまとめて表現する。

【採点基準】 父親が動物をみていたときの状態に共通している様子を述べているものを正答とする。

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 読み取った文章から登場人物の行動の背景を考え、正しく表現する。

【採点基準】 父親がシカの親子をやさしい気持ちで見ることができた、ということにふれているものを正答とする。

【分野】 文学的文章  
【出題のねらい】 物語から読み取れる人間と動物の関係において相反する二つの考え方に ついて、内容を大きくまとめて読み取る。

【採点基準】 ①動物をうつことが生きるためであること、②生きるものには生命があることが読み取れているものを正答とする。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

多くの種子は、発芽するために光に当たることが必要である。だから、暗黒の中で、多くの植物種の種子は発芽しない。しかし、暗黒の中でも発芽する種子はある。身近なものでは、マメ科植物の種子である。ダイズなどモヤシとして食に供される植物は、暗黒の箱の中で発芽したものである。

モヤシは、色白で長身で、力がなさそうにヒョロヒョロと伸びる。だから、私たちは、背の高い細身の子を「モヤシっ子」と表現し、「モヤシ」をひ弱さを象徴する語として使う。しかし、「モヤシ」は、ほんとうに、ひ弱さの象徴にふさわしいのだろうか。

あるラジオ番組に出演した折、モヤシの話をしたことがある。番組終了後、その話の一部を抜粋して、六〇秒間の、「見つめよう日本、身近な植物を知ろう」というキャンペーンのCMが制作された。そのCMは、その後一年間、ラジオで流され、「日本民間放送連盟賞」統一キャンペーンスポット部門優秀賞と「ACC全日本CMフエスティバル秀作賞」を受賞した。

その内容は、「モヤシは、暗黒の中で発芽した芽生えが、『早く光に会いたい』と、光を探し求めて、一生懸命に上へ上へと伸びている姿です。『太陽は上にある』と信じて、ただひたすら背丈を伸ばし、生きようとするたくましい姿なのです。だから、光が当たれば、上に伸びるのをやめます」というものだった。

太陽の光を見失った暗闇の中で植物の生き方が、モヤシの姿である。真っ暗な箱の中で発芽したモヤシは、「なんとか光の当たっているところに出よう」と思い太陽の光を探し求めて、すべてのエネルギーを注いで懸命に背丈を伸ばす。そのけなげな姿が、多くの人々の心を打ったのであろう。

モヤシは、八百屋さんやスーパーマーケットで売られ、ビタミン、食物繊維などが豊富で、手軽に調理できる貴重な野菜である。モヤシ炒めなどでなじみの深い、ごくありふれた安価な食材である。このモヤシの生き方が、多くの人々の心を打ったのだ。ということは、私たちが常日ごろ、身近な植物たちの生き方に、いかに無関心、無感動であるかを意味している。

「モヤシが暗黒の箱の中で育った植物であることを知らない」という人や、「モヤシという植物の種類がある」と思っている人が、意外に多い。この人々には、「モヤシ」という植物は、光の当たるところでも、あのような形態に育つ」と思われているようである。

「モヤシ」という植物種は存在しない。モヤシは、植物の種類の名ではない。植物の種子が、光を与えられず、十分な水をもらって育てられると、「モヤシ」になる。市販されているものは、ダイズなどのマメ類の種子に十分な水を与え、光を遮った暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させたものである。イネやムギの種子でも、十分な水を与え、光を遮った暗黒の箱の中で発芽させ、しばらく成長させた芽生えは、「モヤシ」と呼ばれる。

(田中修「かしぎの植物学」より)

① 「モヤシ」というのは、どういう性質の種子から育ったものですか。また、そのような種子の具体例を二種類あげましょう。

性質 (解答例) 暗やみの中でも、発芽することができる  
具体例 ダイズなどの豆類 【順序不同】 イネやムギ

② 「モヤシ」ができる条件は何ですか。答えましょう。

(解答例) 十分な水が与えられること、光をさえぎっていること

③ この文章に書かれていることからすれば、「モヤシっ子」という表現について、あなたはどうか考えますか。そう考える理由とともに説明しましょう。

(解答例) モヤシは、光を求めてたくましく育つことから、「モヤシっ子」はがんばる人を表すほうがよいと思います。

④ この文章によると、「モヤシ」とは、何ですか。次の空欄をうめて説明を完成させましょう。解答は□に書きましょう。

「モヤシ」を( )①( )と誤解している人もいるが、「モヤシ」とは、( )②( )である。  
① (解答例) モヤシという種の植物がある  
② (解答例) 光がなくても発芽できる種子に、十分に水をあたえて、光をさえぎって発芽させて成長させた芽

問題はこれで終わりです。

【分野】 説明的文章  
【出題のねらい】 内容理解にそって問われていることに対して適切な言葉で答える。  
【採点基準】 「具体例」については、ダイズなどの豆類、イネ、ムギの例をあげている解答を正答とする。

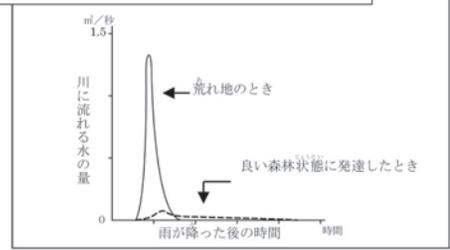
【分野】 説明的文章  
【出題のねらい】 内容理解にそって条件を取り出し答える。

【分野】 説明的文章  
【出題のねらい】 比喩的表現に対する考え方に對して、本文に即して自分の考えを述べる。  
【採点基準】 「モヤシ」がひ弱なものではなく、たくましいものであることをふまえて、そう思う理由、根拠とともに自分の考えを表現しているものを正答とする。

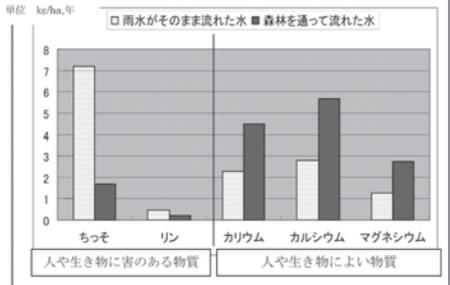
【分野】 説明的文章  
【出題のねらい】 本文全体を読んで理解したことをまとめなおして表現する。  
【採点基準】 ① 「モヤシ」という種の植物がある」ことを書けていること、② モヤシとなる条件を正しく書けているものを正答とする。

3 次の資料1, 2, 3を読んで、あとの問題に答えましょう。

資料1 雨が降ったあとの時間と川に流れる水の量



資料2 雨水と森林を通った水に含まれる物質



資料3 標葉岬の豊かな海を復活させた話

北海道標葉岬では、今では緑豊かな森林が広がっています。しかし40年前ほど前は、木がほとんどなく「標葉砂漠」ともよばれていました。それは、明治時代になつて新たに開拓をした人たちが、多くの木を切り出し、森林をこわしてしまつたからです。森林のない荒地では、雨が降ると、土にしみこめない水はそのまま地表を流れて、表面の土やドロといつしよに海に流れ出てしまつていました。そのため、標葉岬の下に広がる海も、コンブが育たず、魚もとれない不毛の海に変わつてしまつていました。そこで、人々は、海をよみがえらせるために、大変な試行錯誤を経て、植林をし、長い年月をかけて森林を取りもどし、豊かな海を取りもどしたのです。そして40年前は、魚介類水あげ高が50トン程度だったところが、2001年には、2300トンをごえるようになりました。

(1) 荒地のそばと森林のそばに川が流れています。それぞれの川の水のかさについて、資料1からいえることをもとにして、考えましょう。

① 同じだけの量の雨が降った時、どちらの川の水かさが増えますか。□に記号で答えましょう。

ア 荒地のそばの川  
イ 森林のそばの川

② 天気がよい日が続いても、川の水がかれないのは、どちらの川ですか。□に記号で答えましょう。

ア 荒地のそばの川  
イ 森林のそばの川

(2) 標葉岬の海がよみがえつた理由として考えられることを、資料1、資料2、資料3の、3つの資料からいえる森林の働きをもとに説明しましょう。

(解答例) 森林があると、水がゆっくりと地面にしみこみ、洪水や土砂崩れを防ぐはたらきがある。このことから、森林がよみがえつたことで、海に直接土砂が流れ込むことがなくなった。また、森林を通った水は、人や生き物に害のある物質を減らし、よい物質を増やすことができることから、海に流れる水をきれいにすることができたからと考えられる。

問題はこれで終わりです。

【分野】 グラフ・記事  
【出題のねらい】 資料の内容を正しく読み取り、設問にそつた内容を選択する。

【分野】 グラフ・記事  
【出題のねらい】 資料の内容を正しく読み取り、設問にそつた内容を選択する。

【分野】 グラフ・記事  
【出題のねらい】 3つの資料を正しく読み取り、それぞれを関連づけて説明する。

【採点基準】 文章や資料から読み取れる森林の働き機能についてふれて、海がよみがえつた理由を説明できているものを正答とする。

③ 次の夏休みの宿題についての二人の意見を読んで、あとの問いに答えましょう。

北村さんの意見

夏休みに毎日やらなければならない決まった宿題が多く出るのをごまかします。夏休みの宿題はないほうがいいと思います。夏休みの過ごし方で、学校の先生にしばらくたくありません。どうして、おとなはぼくたちの時間を、すべて自分の思うままにしばりつけるのでしょうか。もっと、ぼくたちは、ゆとりがほしいのです。子どもの自由をうばってほしくありません。

夏休みには、秋の試合に向けて、サッカーの練習が毎日あります。ぼくは、サッカーがうまくなって、今年も選手として試合にでられるように、練習には全部参加したいのです。

また、宿題としてではなくて、やりたい自由研究があります。また、それに関連した本をいっぱい読んで研究したいのです。

自分でやりたいことを計画を立てて夏休みを過ごすことも、自分で勉強をすることも、とても大切なことだと思います。

東山さんの意見

夏休みの宿題が多いと文句を言う人がいますが、私は夏休みの宿題はあったほうがいいと思います。

夏休みにもきちんと勉強したほうが、勉強の習慣や勉強の仕方にも身につくと思います。いろいろ勉強することを示してもらって、それに沿って勉強していくのが一番いいのではないかと思います。また、先生がしなさいということは、それがいくらか多くても、きちんとしなければいけないと思います。

夏休みに宿題をすることで力がつければ、学校でみんなと勉強する中で、学びあっているみんなが成長していくことができると思うのです。

宿題が多いと文句をいう人には、そのみんなで学びあうということを軽く考える人が多いのではないかと思います。宿題が多いとか言わないで、私はそれをこれからも確実にやっつけていこうと思います。

(1) 二人は何についての意見を述べていますか。最も合うものをア～エの中から一つ選び、□に記号で答えましょう。

- ア 夏休みの宿題のもつ意味について説明する。
- イ 夏休みの宿題があることについての意見を述べる。
- ウ 夏休みの宿題の内容について苦情を述べる。
- エ 夏休みの宿題をやり終えた喜びを表現する。

イ

(2) 二人が述べている意見の内容はそれぞれ、どのような内容だったでしょうか。北村さん・東山さんのそれぞれについて、次のア～カの中からあてはまるものを二つずつ選び、□に記号で答えましょう。

- ア 夏休みにも指示通りにきちんと勉強をしたほうがいい。
- イ 夏休みにはやりたいことを自分なりに計画して勉強するのがいい。
- ウ 夏休みまで学校にしばらくは行かれない。
- エ 夏休みの宿題は、友達と相談して学びあいができればいい。

オ 先生からの指示は大切な内容だ。  
カ 夏休みの宿題は休みに入ったらできるだけ早く終わらせたほうがいい。

北村さん

イ	ウ
---	---

東山さん

ア	オ
---	---

(3) あなたは、この二人の意見のどちらに賛成しますか。なぜその意見に賛成するのか、二人の意見の内容にふれながら、あなたの意見を書きましょう。

【解答例】わたしは、北村さんの意見に賛成です。夏休みは自由な時間が多くあります。宿題がないと勉強しないという人もいます。しかし、その自由な時間を使うためにも、自分で勉強をするためにも、自由研究など自分でやりたいこと、ふく習や苦手なことなどやらなければいけない勉強を、自分で目標や計画を立ててやりながら、夏休みを過ごすことが大切だと思っています。

(4) 二人の意見のどちらに賛成するかは別として、どちらの文章が説得力のある文章だと思いますか。あなたの考えを説明しましょう。

【解答例】北村さんの意見のほうが説得力があると思います。なぜならば、北村さんの意見は、自分で計画を立てて勉強することが大切だという理由がわかりやすく書かれているからです。

問題はこれで終わりです。

【分野】意見文  
【出題のねらい】二人の意見を正しく読み取り、言及している内容を選択する。  
【採点基準】「北村さん」の解答としてイとウを両方答えられて正答、「東山さん」の解答としてアとオを両方答えられて正答とする。

【分野】意見文  
【出題のねらい】二人の意見の内容理解に基づいて、どちらの意見に賛成するかを説明する。  
【採点基準】二人の意見をふまえて、文章の内容にふれて説明した上で、どちらの意見に賛成かということが理由とともに述べられているものを正答とする。

【分野】意見文  
【出題のねらい】二人の意見の内容理解に基づいて、どちらの意見のほうが説得力があるかを説明する。  
【採点基準】二人の意見をふまえた上で、どちらの意見のほうが説得力があるかということとを、具体的に意見の内容にふれた上で説明しているものを正答とする。